

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291300057		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい伏見		
所在地	静岡県駿東郡清水町伏見280-2		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2291300057-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念でもある「ち・い・き」を大切に地域活動に力を入れています。建屋に小規模多機能があり、通いの利用者様と入居の利用者様との交流活動を頻回に行うことで閉鎖的にならないよう心がけています。個別の支援にも力を入れていて、午後はその方に合った過ごし方を提供しています。生活の中で、入居者様に掃除や洗濯、調理などをお願いし、役割が出来るような支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は、同じ建屋に併設している小規模多機能事業所を含む管理者を務めており、利用者同士の交流や職員同士の協力、地域とのつきあい等、両者を柔軟に連携させている。利用者は近隣の方が多く、事業所の夏祭りには住民参加があり、神社の祭りや町内の敬老会には利用者が参加している。近隣の保育園児との交流や中学生・高校生の福祉体験、ギターやマジック等多くのボランティアを受け入れる等、地域との交流も盛んである。また、町役場や地域包括支援センターとの連携が密であり、気楽に相談できる体制になっている。このような環境の中、利用者は笑顔の多い元気な職員に囲まれてゆったりと過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、開設時に職員で意見を出し合い施設理念を作成しました。朝礼にて唱和し毎日確認しています。	ホームの理念「笑顔あふれる幸せいっぱい家族の輪」を、法人理念と併設の小規模多機能の理念と共に、事業所と小規模多機能の職員が、合同で開催する朝礼で唱和し職員間で共有している。会議等で意識付けもしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町の敬老会や地域のお祭り、防災訓練など様々な地域行事に参加しています。	事業所の夏祭に住民が参加し、利用者は神社の祭りに出かけ、町内の敬老会にも参加している。近隣の保育園児との交流があり、中学生と高校生の福祉体験やギターやマジック等多くのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護者の会に参加し施設の説明をしたり、管理者が講師となってキャラバンメイト活動など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、包括や町役場の方、民生委員の方との意見交換をしている。	併設の小規模多機能との共催で2ヶ月に1回定期開催している。町内会副会長や民生委員、町の職員や地域包括支援センター、家族等が参加し、議事録は毎回町に持参している。会議では参加者との活発な意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症初期集中支援チームに所属している事や小規模の管理者と兼務のため町役場に出向く機会が多く交流は密である。	町役場との連携が密で週1回は訪問しており、報告はもとより気楽に相談できる体制になっている。地域包括支援センター主催のグループホームやショートステイ施設等の地域連絡会に参加することで情報交換等ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゼロ宣言のもと身体拘束についての研修などを通じ拘束の無いように努めている。	身体拘束廃止については、年1回の法人全体の研修と3ヶ月に1回のホーム内研修を実施している。研修に出席できなかった職員は、資料を用いて自習をしている。部外者侵入防止を目的に、家族の了解を得て入口を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を受けることが法人の必須となっていることもあり管理者から周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者にて把握しているが職員の学ぶ機会はほぼない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には1時間ほどの時間をいただけるようお伝えし、疑問点の残らないよう十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話を大切にし、来所時には必ず時間をいただいている。	近所の家族が時間に関係なく気軽に寄る等、家族の面会は多い。面会や運営推進会議、事業所の夏祭りやバーベキュー大会等の際に、意識して家族の意見を聞き取る時間を作っている。来訪の少ない家族には、電話で連絡を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や全体会議にて意見をくみ上げている。	全体会議やフロア会議は自由な雰囲気で開催され、職員から多くの意見が出ている。会議の前にフロアの壁に議題を掲示し、予め意見をまとめる時間を作る等、活発な議論ができるように工夫している。自己評価は全職員が参加し作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、役職と能力に評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や基礎研修にて一定以上の介護力が身につくよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職種別連絡会が包括支援センター主催にて定期的に関催されていて参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別に要望などを伺い多人数で過ごす時間は職員と一緒に関わるなど安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の今までの様子や性格などをお聞きし、不安が解消できるよう相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所することが最終ではないことをお伝えし、他の選択肢についても常に検討できることもお話ししている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯など、「出来ることは自分で」という役割を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望やご家族の期待などを一緒に叶えられるよう相談しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族よりお聞きした馴染みの場所に出かけることがある。	飲み友達とのドライブや馴染みの美容室に行く利用者には職員が同伴している。家族と外食したり、自宅で食事をしたり、あるいは法事に出かけたり、併設の小規模多機能に来る知人と会ったりするなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやお茶の時間には決まった席ではなく、職員も踏まえた会話のローテーションができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族がみえ新聞やウエスタオルなどの援助をいただいたり、現在の様子などもお伺いで来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ちょっとしたご本人の言葉など記録に記載し共有している。	個人の記録や日常生活で気づいた事を職員が改善提案報告書に記入し、本人の気持ちになって意向の把握に努めている。食べたい物はすぐに提供するなど、家族にも確認して希望に沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を分かる範囲でお聞きしケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせているが、いつもと違うにすぐ気が付けるよう気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議ではケアに向けてのお話をじっくり聞けるようにしている。	フロア会議や気づきがあればその都度カンファレンスを行い、常に見直しをしている。介護計画更新の際には家族に必ず来訪してもらい、担当者との話し合いの上で現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	書き方や表現を統一しより細かい情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自費の外出支援や、個々のニーズに合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族が近所にお住いの方もいるため、ご本人の級友や親族との面談がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には連携医についてと、今までのかかりつけ医でも対応できることをご説明している	月2回提携医の往診があり、提携医以外の専門医には基本的に家族の付き添いで受診している。受診の情報は職員と家族で共有し、24時間医療連携している看護師から指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースとは連絡ノートにて情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中から頻回に訪れ常に情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な終末期に向けての意向の確認や、施設での実績についてもご説明している。	重度化や看取りについては、まず入居時に説明と確認をし、年1回のケアプラン更新時に「緊急時対応確認書」で事業所の対応を確認している。家族の意思を尊重して納得した最期を迎えられるように支援し、職員には全体会議で看取りに関する研修や勉強会を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を分かりやすく掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPIについてや、独自の安否コールシステムがあり周知している。	年2回の防災訓練を実施し、地域の防災訓練には利用者も参加している。事業所独自に夜間想定訓練も行っている。法人本部から安否コールの訓練があり、全職員に毎月2回のテストメールが送信されている。	地区防災組織や町内会副会長・民生委員等と話し合い、いざという時に地域の協力が得られるように、地区防災組織等との協力体制を深めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の研修や会議などで周知に努めている。	サービス基準書に基づき、身だしなみやマナー・生活環境等の研修や勉強会を行い、利用者の望む環境作りに取り組んでいる。レクリエーションや散歩等は、無理強いせずに利用者のペースに合わせるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的に話される方が少ない中、職員にて汲み取れるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩に行きたい」「出かけたい」などの希望に突発的にも対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で身に着けていた衣服が継続して着られるよう最大限考慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	餃子づくりやおはぎづくりなどの調理も楽しめるような機会を作っている。	職員の手作りで、利用者の状態に応じて刻みやとろみをつけている。ファミリーレストランでメニューを見て食事を選んだり、併設の小規模多機能施設と合同でおやつパーティーを開催したりする等で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量を記録し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の口腔ケア指導も取り入れ、口腔衛生面に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のペースや課題を常に話し合っている。	チェック表や時間・利用者の様子を見て声掛けし、トイレでの排泄支援を行っている。夜間の排泄については、利用者の気持ちを考えて睡眠中の声掛けのタイミングを考慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談のもと服薬管理をし、食事面でも水分量や野菜などで解消できるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴できる環境を整えている。	週2回午前中の中の入浴を基本に利用者の体調を見ながら行っている。入浴を拒む利用者には、声掛けする職員を替えたり、入浴を翌日に変更する等、工夫をして入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった就寝や起床の時間はなくご本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に出来ることを見出し、1日の中で何かしらの楽しみがあるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能であればいつでも柔軟に出かけている。	月3回行事があり、車で紅葉狩りや地元の神社の祭り・外食等に出かけている。個別の外出にも車を利用して柔軟に対応している。天気の良い日には、近くの公園へ散歩に行ったり、職員と一緒に車でスーパーマーケットへ買い物に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には金銭の持ち込みはご遠慮いただいているが、ご家族同意のもと少額の金銭や貴重品をお持ちいただくことはできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは同意がある方についてはいつでも可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りなどで環境整備に気を配っている。	明るく清潔に保たれた居間には、ハロウィンやクリスマスなど担当職員が考えた四季折々の飾りがされており、廊下の壁には外出や行事等で利用者が楽しむ姿の写真が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性なども考慮した席の配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の配置や使用するものに制限はなく、ご本人の馴染みの物で過ごしていただいている。	クローゼットや洗面台は備え付けで、エアコンは季節ごとに職員が掃除を行っている。火を使用しないものであれば何でも持ち込み可能であり、使い慣れたタンスやテレビを置く等、利用者の好みの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に最大限考慮しながら、なるべくご本人の意向で動けるようにしている。		